

平成31年3月 LCA国際小学校 学校自己評価

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価					
◆社会の一員として個性を生かして、社会に貢献できる人間の育成 ◆世界を舞台に活躍できる人間の育成 ◆生きることの素晴らしさを知った人間の育成	信頼できる学校づくり（教育の質・保護者などへの連絡の正確さ） 子どもの英語教育センターとしての機能の充実（教材・プログラム・人材）	新校舎への移転に合わせて、組織強化に取り組んだ。英語の教育センターとしての役割を果たせるよう、カリキュラム、テキスト、カード作りに取り組んだ。					
	今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	学校の組織を強化する（教務の仕事と事務の仕事の明確化）ことで、教務が教育の質を上げ、事務が正確でミスのない仕事をできるようにする	教務と事務を分けることはできた。更に教務、事務それぞれの質の向上を目指す	○				教職員の増員 校務・事務分掌の作成、周知
各教科の指導計画の見直しと向上	各教科部会を開き、またブレインストーミングをするなどして指導内容の検討をした。	○				各教科指導書の作成（道徳含む）	

領域	対象	目標	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	教育課程	学習指導要領に準じながら英語力を伸ばすカリキュラム作り	児童会・委員会活動の定着	概ね順調に活動できた。		○			新校舎に移転したことにより、低学年・高学年が同じ校舎になったことから委員会活動が活発化した。
	教科指導	体育：運動量を増やす。カリキュラムに変化を持たせ、飽きさせない授業ができる。講師を招いて教員研修をする。	日本の体育指導の良い点を取り入れ、運動量を多くした指導法の確立。	体育の授業に精通した教員を配置した。また、研修を実施した。 五輪出場アスリートを招き、スポーツの重要性を確認した。	○				講師を招く、研修に出向くなどの方法を並行して検討する。
		独自開発した英語のオリジナルテキストを使用し、ディスカッション・ディベートなどの能力を上げる。	高学年は授業の中で学んだことを活かして、英語でディスカッションができる。	英語のオリジナルテキストを使った授業が定着している。		○			英語のオリジナルテキストの更なる活用を確立する。
		国際人としての国語力とは何かを見直し、研究し、オリジナルのテキストの作成にとりかかる。一部は授業で使用を始める。	オリジナルの教材を使用して効果的な授業ができる。	オリジナルテキストの製作は進んでいる。		○			テキスト作りを継続し、使用を開始する。
	児童指導	「自分の気持ちを、相手にきちんと伝える。相手の気持ちを受け取れる。」ことを大切にしたい児童指導の徹底。特に養護教諭がカウンセリングをできるようにする。	児童が学校で起きたトラブルなどで、気持ちが曇ったまま帰宅することが無いよう取り組めたか、また、家庭との連絡やその後のフォローは適切にできたか。特に担任、養護教諭が対応できたか。	児童との相談、保護者との相談を誰がいつするかなどについてのマニュアルにそって対応した。 スクールカウンセリングによるカウンセリングを実施した。	○				スクールカウンセリング体制を更に充実する。
学校運営	地域との連携	地域と連携し、社会科見学を実施する。また、実際的な話を聞くために、地元の方を講師として招く	地域の方との連携で効果的な指導ができたか	スクールカウンセリング体制を更に充実する。		○			更に、地域各種団体との連携を図る。
	研修	LCAの教育理念を理解するための研修 新しい学力観に基づいた授業の研修 自立した子を育てるための野外活動研修	研修は適切に行われたか、また、効果はあったのか	春休み、夏休みの期間を活用して、研修に努めた。		○			相模原市の公立学校の見学や研修への参加、更に、研究発表会の開催を検討する。

特別の教育課程編成・実施報告書（平成 30 年度）

神奈川県			
学 校 名	管理機関名	設置者の別	校種
LCA 国際小学校	株式会社 エデュレエルシーエー	株	小

1 特別の教育課程の編成	
<p>(1) 教育課程の基準の特例の内容</p> <p>教育課程の基準によらない部分として以下の 2 点</p> <p>①小学校における英語科の設置</p> <p>②原則として各教科（国語科、第 4 学年以上の算数及び第 4 学年以上の社会科の一部を除く）英語で授業を行う。</p> <p>(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性</p> <p>相模原市には米軍基地が三か所あり、米国軍人とその家族が暮らしている地域である。</p> <p>また、相模原市は公立、私立の学校も多く文教都市的な性格を持っていて、学校教育の多様性や英語教育の充実を望む声も多い。</p> <p>このような地域の特性を踏まえ、LCA 国際小学校においては、構造改革特別区域制度（相模原市国際教育特区）により、平成 20 年 4 月から国語科等以外の教科等の授業を英語で行うイマージョン教育を行ってきており、今後も同様の取り組みを継続する必要がある。</p> <p>更に、LCA 国際小学校附属プリスクールにおいても英語イマージョン教育を実践しており、卒園生の英語教育の継続的な対応が必要となっている。</p>	
2 取組の期間	
<p>・特例の適用開始日 : 平成 21 年 4 月 1 日</p> <p>(構造改革特別区域認定による特例の適用開始日 : 平成 20 年 4 月 1 日)</p> <p>・変更した特例の適用開始日 : 平成 年 月 日</p> <p>・取組の終期 :</p>	
3 特別の教育課程に基づく教育の実施状況	
<p>(1) 実施体制</p> <p>外国人教師と日本人教師がチームを組んで、連携を図りながら教育活動を実施している。また、教育アドバイザーとして退職公立学校教師を配置し、学習指導要領に基づいた指導ができるように外国人教師の指導力向上を図っている。教育を実施するための体制については、別添「校務分掌」の通りとなっている。実施状況の評価については、自己評価を行い、ホームページを通して公開している。</p> <p>(2) 指導計画及び授業の内容</p> <p>年間指導計画等に基づき授業を行っている。</p> <p>(3) 児童・生徒への教育上の配慮等</p> <p>日本人としてのアイデンティティーを備えた上で、英語を使いこなし国際社会で活躍できる人材を育成している。また、学力だけでなく、毎日の学校生活の中で考え感じる力やコミュニケーション力を養い、ひとりひとりの個性を活かした教育を行うよう配慮しながら指導している。</p> <p>児童の学習進度に応じて、放課後等に日本人教員による個別指導を行い、授業での遅れの解消や弱点の克服に努めている。転入時には保護者を対象にオリエンテーションを開催して受け入れ準備</p>	

を進めるとともに、教務主任、スーパーバイザー（SVT）及び副担任が中心に転入生を支援している。転校する場合においても、転出先で支障がないような指導計画を立て、実施している。

（４）情報提供の状況

ホームページで定期的に情報提供するとともに、保護者宛てに週１回メールで学級の様子を伝えたり、月１回ニュースレター（教務だより、保健だより等）を発行したりしている。

※ホームページアドレス <http://elementary.lca.ed.jp/>

また、学期に数回、学園長や学校長が保護者全員に対して学校の状況や教育について報告し、保護者と意見交換を行っている。また、学校評価や各事業実施後のアンケート等を実施し、次年度の学校の取り組み方針等を伝えている。

4 実施の効果、課題と今後の取組

（１）実施による効果

- ・各教科の授業を英語で行う英語イマージョン教育を進めたことにより、児童の日常会話はもちろん、自分の考えや意思を表現することができる基礎的な力が育成されている。入学児童数が増加していること等から、上記事項について外部から一定の評価を得られたものと思われる。
- ・欧米の教育を受けてきた教師が指導することで、児童の発言力やプレゼンテーションの力、更にはパフォーマンスデイ等の発表会での表現力も向上した。外国人教師が持つ文化に触れることができ国際理解にもつながった。
- ・少人数クラス（２０名）でディスカッションを多く取り入れた授業を通して、思考力を育むことができた。平成３１年３月の卒業生２２名のうち、２１名は塾に通わずに公立中・高一貫校、私立中学校に合格・進学した。
- ・英語力の一つの目安として英検を受験したが、在校生の多くが英検２級、準２級に合格し、また、１級に合格した児童もいる。海外のインターナショナルスクールに短期留学した際にも、児童は困ることなく授業を受け、友だちをつくって帰国している。海外からの短期留学生の受け入れも問題なく実施できている。
- ・中学入試で難関校を受験しても、国語力で困ることはなかった。

（２）課題と今後の取組

スピーキング能力を更に向上させ、ネイティブスピーカーとの差を少なくする必要があることから、英語で会話する機会を今まで以上に増やしたいと考えている。また、英語圏の子ども達と一緒に学習や生活することで、実践的な英語力と英語を学習するモチベーションを高めることができたので、そのような機会（スカイプ授業等）を更に増やしていく。今後は、米国からの留学生の受け入れを更に充実させ、ネイティブスピーカーとの交流を深めることにより、英語力の更なる向上を図る。

また、日本人に合った独自の英語教材を作成したところであるが、更に教材作成に力を注ぎ、広く本校のメソッドを全国に普及し、英語教育の充実に寄与したい。平成 27 年度から新校舎の使用を開始し教育環境も充実した。セミナーハウスの有効活用も図りながら、更に充実した英語教育活動を展開していきたい。